

2023年室内環境学会学術大会 大会長奨励賞
優秀口頭発表賞(学生会員) 受賞の言葉C-08# 気中噴霧アロマ精油による香りが学習効率と印象評価に及ぼす影響
(その44) 気中噴霧された精油の臭気濃度が香りの心理評価特性に及ぼす影響福本柊一郎¹⁾, 山中俊夫¹⁾, 崔ナレ²⁾, 竹村明久³⁾, 小林知広¹⁾, 山口剛毅¹⁾

1)大阪大学, 2)東洋大学, 3)摂南大学

このたび、2023年室内環境学会学術大会で発表いたしました“気中噴霧アロマ精油による香りが学習効率と印象評価に及ぼす影響（その44）気中噴霧された精油の臭気濃度が香りの心理評価特性に及ぼす影響”にて大会長奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

近年、働き方改革による効率的な仕事の需要の増加やリモートワークの推奨が進む中で、室内における知的生産性の向上はより重要な課題になってきていると言えます。そこで、本研究では、室内環境にアロマなどを用いて香りを演出することで集中力や記憶力向上等を図る香り環境に注目し、検討を行いました。香り環境は、現在様々な場所で導入が行われており、ホテルエントランスや会社の執務室等には実際に導入事例が増加しています。しかし、学校の教室のようなパブリックな空間に対しての導入事例が少なく、学習空間において香り環境が及ぼす影響については未検討の内容が多いという課題がありました。したがって、本研究では大学自習室に実際にアロマを用いた香り環境の導入を行い、学習空間における香りが環境評価及び学習効率に及ぼす影響を調査してきました。昨年度の室内環境学会においても大学自習室においてアロマを噴霧し、アンケート調査を行った結果を紹介しました。本年度に関しては、昨年度における課題を元に、使用するアロマについて事前実験により詳細な特性を調査し、自習室における実際の噴霧では同一のアロマを数週間噴霧する条件を加えることにより、アロマの噴霧期間が評価に及ぼす影響を調査しました。調査の結果、アロマについては同量の精油を用いても臭気強度が変化することや臭気強度によって嗜好度、快不快度等の評価が影響を受けることが分かり、実際の噴霧に関しては同一アロマを噴霧し続けることで多くの評価がマイナス側に変化し、香りに対する慣れが評価に悪影響を与えていることが分かりました。

最後になりましたが、研究にご協力頂いた被験者の皆様、研究遂行にあたり貴重なご助言を頂きました方々、本研究をご評価頂いた大会関連の先生方に心より感謝申し上げます。

……著者データとプロフィール……



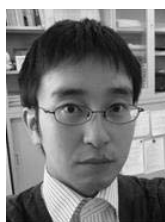
福本柊一郎
(ふくもとしゅういちろう)
大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学
専攻
博士前期課程2年



山中俊夫
(やまなかとしお)
大阪大学大学院 工学
研究科
地球総合工学専攻
建築工学部門 教授



崔ナレ
(ちえなれ)
東洋大学
理工学部 建築学科
助教



竹村明久
(たけむらあきひさ)
摂南大学 理工学部
住環境デザイン学科
准教授



小林知広
(こばやしともひろ)
大阪大学大学院 工学
研究科
地球総合工学専攻
建築工学部門 准教授



山口剛毅
(やまぐちこうき)
大阪大学大学院
工学研究科地球総合工
学専攻
博士前期課程1年